

シラバス (授業計画)

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
税法学特論 I	1・2 年生	選択	2 単位	丹羽 崇之
<p>授業の到達目標及びテーマ 租税法総論について学ぶ。報告、討論及びレポート作成等により、租税法の知識、考え方を身に付ける。</p>				
<p>授業の概要 授業の該当テーマについて、金子宏『租税法〔第 23 版〕』を精読し、法令、判例、学説等の理解を深める。各テーマについてかなり速いスピードで授業が進められる。授業 1 回当たりのボリュームも多いため、相当の準備が不可欠である。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第 1 回 租税の意義</p> <p>第 2 回 租税法の意義と特質</p> <p>第 3 回 わが国における租税制度の発達</p> <p>第 4 回 租税法の法源と効力</p> <p>第 5 回 租税法の基本原則(1) 租税法律主義</p> <p>第 6 回 租税法の基本原則(2) 租税公平主義、自主財政主義</p> <p>第 7 回 租税法の解釈と適用</p> <p>第 8 回 課税要件総論(1) 納税義務者</p> <p>第 9 回 課税要件総論(2) 課税物件、課税標準、税率</p> <p>第 10 回 納税義務の成立・承継及び消滅</p> <p>第 11 回 附帯税、納税者の債権</p> <p>第 12 回 租税手続法序説、租税確定手続(1) 確定の方式</p> <p>第 13 回 租税確定手続(2) 申告納税方式、更正の請求、更正・決定</p> <p>第 14 回 租税確定手続(3) 推計課税、賦課課税方式、確定権の除斥期間、質問検査権</p> <p>第 15 回 まとめ</p>				
<p>履修上の留意点、準備学習等 (事前・事後学習) 憲法、行政法、民法、会社法等の知識が必要である。 各回 4～8 時間程度の事前・事後学習を求める。</p>				
<p>テキスト 金子宏『租税法〔第 23 版〕』(弘文堂) 『実務税法六法』(新日本法規出版) または『税務六法』(ぎょうせい) 中里実他編『租税判例百選〔第 6 版〕』別冊ジュリスト (有斐閣)</p>				
<p>参考書・参考文献・参考資料等 税務大学校講本『税法入門』『国税通則法 (基礎編)』 伊藤義一『税法の読み方 判例の見方〔改訂第 3 版〕』(TKC 出版) 佐伯仁志・大村敦志編『ポケット六法 令和 3 年版』(有斐閣) 法令用語研究会『法律用語辞典〔第 5 版〕』(有斐閣)</p>				
<p>成績評価の方法・基準 授業への取り組み (事前・事後の学習、授業での発言等)、提出物等の結果を総合勘案して評価する。</p>				